

## ハスモンヨトウ

### ○ 被害と発生生態

山口県では年間5～6回発生するが、6～7月に飛来した成虫は移動性が高く、被害が発生することは少ない。山口県では野外での越冬はできないと考えられる。雑食性で多くの植物を食害する。ダイズでは、8月以降に葉を、9月下旬以降は葉だけでなく莢や子実も食害する。9月以降になるとキャベツ、ハクサイ等の露地野菜で増加する。イチゴ等の施設では周年発生する。

卵塊は黄褐色の毛で覆われ、大豆では上位葉の葉裏に、施設では鉄骨パイプやビニール等の高い位置に産卵することが多い。ふ化後2齢までは集団で摂食する習性があるため、食害を受けた葉が白く見える(白変葉)。3齢幼虫期以降は分散して食害する。全幼虫期の摂食量の約95%は老齢幼虫によるものである。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・施設では、開口部に防虫ネット(目合い4mm)を設置する。
- ・黄色蛍光灯等を周夜点灯し、飛来を防止する。
- ・卵塊や若齢幼虫が集団で生息している白変葉を早めに除去する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・中～老齢幼虫(体長1.5cm以上)になると薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期に防除する。
- ・フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数から防除時期を判断する場合は、8月以降の誘殺ピークから2週間目が防除適期となる。
- ・ダイズでは、8月下旬～9月中旬に1～2回薬剤防除を行うが、多発生の場合は補完散布を行う。
- ・各種薬剤に抵抗性が発達しているため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。



卵塊からふ化する幼虫



ダイズの白変葉



若齢幼虫によるキャベツの被害



老齢幼虫



フェロモントラップ



誘殺された雄成虫